

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 9 号

大阪大谷大学教職教育センター紀要第 9 号発刊にあたって	藤村 裕爾… 1
《論文》	
保育現場における人間関係に関する学びの検討 ——学生によるエピソード記述の「形式」に注目して——	井上 寿美… 3
多人数を対象とした教科理科における個別実験授業の比較	大倉 孝昭… 19
「道徳教育」制度改革の国際比較にみる教職教育の課題	中島 悠介… 35 開沼 太郎
《研究ノート》	
中等教育現場における福祉教育への取り組みに関する研究 ——中学校でのアンケート調査と高等学校での発展的学びに着目して——	神部 智司… 56 新崎 国広
《事業報告》	
「児童理解・指導の方法」の授業をとおして	中島 智子… 67
教育インターンシップ I の取り組み（主に中学校・高等学校について） ——「志定まれば、気盛んなり」をめざして——	浦部 孝英… 72
《活動報告》	
平成 29 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告	教職教育センター… 81

2017 年 12 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 9

Message from the Center Director FUJIMURA Yuji 1

《Articles》

Consideration on Learning Related with Human Relation in Nursery Sites :
Paying attention to the “forms” of episode description by students INOUE Hisami 3

Comparison of Individual Experiments Theme
in the Science Class learned by many Students OKURA Takaaki 19

A Challenge of Teacher Education and Training :
Comparative Study of the Development of “Moral Education” NAKAJIMA Yusuke 35
KAINUMA Taro

《Research Note》

A Study on the Approach to Social Work Education in Secondary Education
– Focusing on the Development of Learning in Senior High School
based on Questionnaire Survey in Junior High School – KAMBE Satoshi 56
ARASAKI Kunihiro

《Reports》

Through a Lecture Series of “The Method of Children Understanding and Guidance”
NAKAJIMA Tomoko 67

Report on Education Internship I at upper or lower Secondary Schools :
Aiming to “When a Will is Decided, a Mood Becomes Prosperous” URABE Takahide 72

Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Annual Report – 2017
Teaching Training Support Center 81

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

「児童理解・指導の方法」の授業をとおして

中島 智子*

1 はじめに

2017年3月31日雨の金曜日、小学校校長として最終日を迎えた。片付かない業務の処理で、かなり遅い時間に学校を出た。そしてあくる4月1日土曜日から本学の特任教授として出発することとなった。その時間差はおおよそ12時間ぐらいで、なかなか切り替えづらいままたスタートを迎えた。

本学を志望した理由は、現場での経験を教員養成に生かすことができるかもしれない、もしかしたら自分にも何かできることがあるかもしれないと思ったからである。

そんな自分が「児童理解・指導の方法」の授業を担当させてもらえることになったのはたいへん幸せだった。学校現場では、いかに児童理解をすすめるかという課題を主軸に日夜教職員が奮闘している。児童理解は生徒指導の根幹である。また、永遠の課題でもある。なぜなら、人間は一人ひとり個性をもっているが故に、ひとりとして同じ現れをする児童はおらず、したがって児童理解のアプローチも一律ではないからである。

授業では、直前まで学校現場にいたということを自分の強みと考え、できるだけ現場での子どものようす、実際の教育実践などを盛り込んで授業をすることとした。15回をとおして、教師をめざす学生に伝えたいことはたくさんあったが、なかでもいちばん伝えなかったことは、「子どもの『よさ』に依拠する」児童理解についてである。

2 子どもの「よさ」に依拠する児童理解

生徒指導というと「校門での遅刻指導」で叱責されるイメージだとある学生が言った。「生指」=厳しい校則指導、スカートの丈、問題行動、などを連想する学生は多かった。

しかし、「生徒指導提要」1)によると、「生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するもの」とあり、「ともすれば学校における生徒指導が、問題行動等に対する対応にとどまる場合もあり、学校

*大阪大谷大学教育学部教育学科特任教授

教育として、より組織的・体系的な取組を行っていくことが必要であることが指摘」されているとある。「消極的生徒指導」2)にとどまらず、いわゆる「積極的生徒指導」2)の必要性について述べているのであるが、「生徒指導提要」をみるまでもなく、教育現場では「積極的生徒指導」が機能しているかどうかが実際にとても重要であり、だからこそ多大な労力をかけてもいる。

そして、「積極的生徒指導」の根幹にあるのは児童理解である。規律違反や問題行動などの指導の場合にすら、児童理解が指導を左右する。私は、児童理解とは「その児童を完全に理解した」と認識することではなく、ひとりの児童をより深く理解しようと努めることだと考えている。さらに、児童理解はその児童の「よさ」に依拠するものでなければならない。

子どもたちは一人ひとりかけがえのない個性を持っている。その個性が「よさ」として、集団のなかで見えやすい児童もいるが、なかなか見えてこない児童もいる。後者の児童は、よく「困った子」「乱暴な子」というようなマイナスのレッテルを貼られる。ときには避けられ、嫌われることもある。その場合本人は、どんどん自己を否定し、投げやりになり、事態は悪化することが多い。そして、ますます、その児童の「よさ」が見えにくくなるという悪循環となる。高じれば高じるほど、指導は困難になる。

「よさ」に依拠することを意識して理解に努めなければならないのは、まさにそういう「よさ」が表に現れにくい児童に対してである。集団のなかでよくない行動をしてしまう児童に対して、その児童が何故そのような行動をしてしまうのかということを探るとともに、そんな現れをする児童のなかに眠っている人間性を信じ、徹底してそこに依拠しなければならない。

児童の「よさ」に依拠した指導とは、表面だけを見て心にもないほめ言葉を言ったり、間違った言動に対して叱りもせずに見過ごすことではない。本気でその児童と向き合い、表面からは見えないその子固有のよい本質を捉え、嘘のない言葉で当該の児童に伝えることである。そして、「よさ」を見抜くということは、その子が自分の「よさ」を表現できない状況に置かれて来た事実とその背景をも併せて理解しようと努めることでもある。それこそが「よさ」に依拠する児童理解である。

3 子どもと本気で向き合える教師に

「私は教師に向いていないかもしれない」と話す学生がいる。だが、ほんとうは教師に向いていない人間などいないのかもしれない、と思うことがある。教育現場には本当に多様な子どもたちがいる。挫折の体験を持った大人は、挫折に向き合っている子どもの気持ちに共感できるかもしれない。学力面で苦労した学生は、児童のわからない気持ちをわかり丁寧に指導できるかもしれない。教師になるにあたって、不要な体験など何もない。

だから、教師に向いているかどうかを早急に決めることはできないと思う。「ぜんぜん教師に向いていない」と自分で思っている、実は、そう思っているその人をこそ、心から教師として求めている子どもがどこかにいるかもしれないのである。そういう意味では、自分自身の教師を目指す志の中身や強さが、教師としての資質そのものの軸になるのではないかと考える。もし教員採用試験に合格して教師という職を得ることができたとしても、毎年毎年、唯一無二の子どもと出会いながら、教師である限りずっと教師を「目指して」いかねばならない。教師は最初から教師ではない、子どもが教師にしてくれるからである。子どもと本気で向き合っただけこそ、教師はよりよい教師として育つ。

子どもと本気で向き合おうとすると、教師自身も、時どきに自分の価値観を問われる。人生観や生き方をも問われることがある。経験を積んだからといって必ずしもうまくいくとは限らない。多様な個性と向き合って児童を理解するには、教師の側も多様なものごとを見聞きし、経験し、自分もまた成長しつづける存在でなければならない。

ゆえに、子ども理解、集団づくりは永遠の課題であり、完璧なマニュアルなどない。だからこそ面白いし、だからこそ教育現場はドラマと感動に満ちている。苦労の日々が百日続いても、一瞬の場面でその苦労が消え去り、大きな喜びで満たされる。教師というのは出会いと挫折、そしてよろこびと感動に満ちた職業である。そんなことを学生に伝えたい。

4 終わりに

「授業規律」にはこだわった。本講義の授業規律を学生たちに話し合ってもらうことで、自律的に授業規律を大切にすることが必要であると知ってほしかった。「自己指導能力の育成」4)の大切さを実感するためには、自ら体験することが一番であると考えた。たった15回の講義での出会いではあるが、授業の場を「学級」のように想定して「授業規律」を考えた。(※1)

また授業では、グループワークを多く取り入れた。他の人の意見や考えからたくさんの学びが得られることを体感してほしかったからである。講義を聞くといういわば「in put」するばかりでは、なかなかそれぞれの学びにならないのでは、と考え、「out put」できる場をたくさん持つようにした。前期は、受講学生数が123人で大きい教室にぎっしりだったので、グループワークの際には難儀した。移動も自由にできない状況だったため、小グループで着席してのワークにならざるを得なかった。途中からは、学生の問題意識や疑問にはできるだけ答えることを大切に、一方的な講義形式ではなく、双方向的な学びの形を考えた。

学生たちは、ボランティアやインターンシップなどの経験はあるにしても、まだほとんど教育現場をしらない。だが、学生は、自分自身が小学校時代や中学校時代を送った経験があり、

「児童理解・指導の方法」の授業をとおして

子どもの側から教育現場を経験している。自分の経験をとおして、学校や教師を知っている。教師という立場ではなく、子どもの側に近いからこそ、「児童理解」を学ぶには最もよい時期だ。

毎回、学生からの質問は、忌憚なく、鋭く、その視点には私自身が学ぶことも多くあった。答えるためには、自分も勉強せねばならない。経験主義に陥る危険性を警告してくれた受講する学生には、私自身感謝している。時には学生自身が、いじめなど大きな傷みを経験している

※1（学生からの授業規律案 2017. 6. 21 配付資料より抜粋）

グループワークでは、一人1回以上（2回以上）発言しよう
授業には積極的に参加しよう
回りに迷惑をかけるので授業に関係のない私語をしない
先生の話はしっかり聞こう
人の話は、最後まで目を見て聞く
チャイムで授業がはじめられるように、着席しよう
人の意見の尊重しよう（一緒に考える）
共感的理解をしよう、相槌を打つ、拍手するなどしよう
やむを得ず途中で出入りするときは静かに出入りする
寝ないで授業を受けよう（眠たくなったら背伸び、5分だけ寝て起きる・・・）
整理整頓を心掛ける、机の上は片づける、必要ないものは置かない
まず自分で考える、自分はどこがわからないのかはっきりさせる
自分がされて嫌なことは人にしない、周りのことを考える、自分がされてうれしいことを進んで人にしよう
楽しく授業をうけよう
あいさつをしよう
メリハリをつけよう
ケータイは電源を切るかサイレントにして鞆になおす
ほめることをしよう
困っている人は助ける。忘れた人に本を見せる
この授業では心を開こう
自分の考えをしっかりと伝えよう
人の意見はメモしよう
グループの発表者は替える、押し付けない
自分の名前は何よりも丁寧に書く
遅刻したらあやまろう
人の名前を大切に（さん、くんをつけてよぶ、人の名前も丁寧に書く）
部屋は後ろから出る
座席をグループ内で替える
忘れ物をしない
良いところをみつけて伝える
人に何かしてもらったらありがとうと御礼
元気よく手をあげ大きな声を出そう
周りの人とかかわりを持つ
トイレに行くときは先生に一言いう
ごみはごみ箱へ入れる
振り返りシートに7行以上書く

場合もあった。学生からのフィードバックに身が引き締まる思いで、授業にも熱が入った。

資料の印刷が拙かったり、プレゼンテーション画面が見づらかったり、運営上の課題もそのたび指摘してくれる学生がありがたかった。慣れない状況にあたふたしながらも15回の講義を終えられたのは、ひとえに受講していた学生のおかげであると思う。

この講義を担当できてほんとうによかった。そうほっと思う間もなく、後期の授業がはじまる。自分自身も学生とともに成長できたらうれしいと思いつつ、後期の準備をした。受講している学生の中から一人でも多く「よい先生」を育てたいと、現場で出会った子どもの顔を思い浮かべて改善点を探る。

(1) 生徒指導提要

2010（平成22）年に文部科学省により発行された学校・教員向けの生徒指導の基本書。この書を作成するため、文部科学省は「生徒指導提要の作成に関する協力者会議」（2009-2010）を設置し、検討を行った。現在も教育現場で使用されており、教員採用試験の筆記問題としても扱われている。本講義の教科書として指定している。

(2) 消極的生徒指導、積極的生徒指導

消極的生徒指導とは、問題行動が起こったとき、その対応や事後指導としての生徒指導を指す。一方、積極的生徒指導とは、児童生徒の成長を促す生徒指導、問題行動の未然防止としての生徒指導を指す。前者を「治療的・対症療法的生徒指導」、後者を「開発的・予防的な生徒指導」とも言う。

(3) 自己指導能力の育成

自己指導能力とは、自己をありのままに認め（自己受容）、自己に対する洞察を深めること（自己理解）、これらを基盤に自らの追究しつつある目標を確立し、明確化していくこと。そして、この目標の達成のため、自発的・自律的に自らの行動を決断し、実行する能力。（1988年文部科学省「生徒指導資料」第20集）

自己指導能力の育成には、確かな児童生徒理解が必要とされている。また、校則などの規則についても、「児童生徒の内面的な自覚を促し、校則を自分のものとしてとらえ、自主的に守るように指導を行っていくことが重要」とされている。（「生徒指導提要」193ページ）

【事業報告】

教育インターンシップ I の取り組み (主に中学校・高等学校について)

——「志定まれば、気盛んなり」をめざして——

浦部 孝英*

1. はじめに

2017年3月1日(水)は、就職活動をする学生にとって節目の日。日本経済新聞朝刊には次のような記事が掲載された。(下線部筆者)

『経団連加盟企業の会社説明会などの採用活動が1日解禁され、2018年度春卒業予定者の就職活動が本格的に始まる。選考解禁である6月まで3か月間と短いのは昨年と同じだが、3年生夏ごろからのインターンシップ(就業体験)が定着。学生の企業研究が進んでいるとみて各社は説明会の前倒し開催などに踏み切る。「短期決戦」の傾向はさらに強まりそうだ。(中略)

インターンの定着は事前に企業を深く知る欧米スタイルに近づいているともいえる。短期決戦の状況では、よりインターンの重要性が増す。立命館アジア太平洋大学3年の男子学生は「昨年夏から10社のインターンを経験したが、最初は嫌だと思っていた営業職の面白さに気づき、視野が広がった」と話す。

現在、インターンと採用は原則、切り離されているが、文部科学省や経済産業省などは改革を検討している。インターンで得た学生の能力や将来性などの評価、情報を採用判断に使えるようになれば、人材確保がより柔軟になり、ミスマッチも減らせるとみる。』

一方、学校現場でのインターンシップは、企業のそれとは違って、「採用」を念頭に置いた仕組みにはなっていない。山積する学校現場の課題解消対策の一つとして、教育委員会事務局が校長会の理解と協力を得て、大学生等の若い力を投入し続けた結果、インターンシップや学生ボランティアとしての存在効果が教員にも認められるようになり、今や当たり前のように大学生等の姿が季節を問わず学校現場で見られるようになった。

*大阪大谷大学教職教育センター担当教授

教育インターンシップ I の取り組み

学校と学生の win-win の関係性が確立されていく中で、学校は企業における採用判断とは無縁の次元で学生に接し、損得抜きで教育的愛情を注いでくれている。学生が持参している活動日誌に丁寧な指導助言を記入していただける学校も増えている。企業にはない、学校現場特有の存在である「子どもとの絡み」の中で、教師を志す学生の資質能力の向上の役割を一役も二役も果たしていただいている。人材確保のためには、「短期決戦」ではなく「長期熟成」が必要な教育界独特の人材養成法と言える。本意ではないはずだが、背に腹は代えられぬ学校現場の神対応に感謝あるのみである。

昨年度、本学の学生たちもそれぞれの思いを胸に学校現場に足を踏み入れさせていただき、インターンシップやボランティアに励んだ。本稿では、大阪大谷大学教職教育センター（以下「センター」という）の継続事業の一つである「教育インターンシップ I」について、主に中学校・高等学校の平成 28 年度の取り組みについて報告することにする。

2. 事業概要

(1) 事業名 教育インターンシップ I

科目名称	期	対象学年	事前指導	活動期間	事後指導	活動先
教育インターンシップ I	通年	2 年生以上	3 回	短期連続型 3～5 日間	1 回	大学より教育委員会・学校園に依頼

（平成 28 年度教職教育センターハンドブック 5 ページより抜粋）

(2) 対象者

- 職業選択の一つとして、教職を視野に入れている 2 年生以上の学生。
- 社会人としての自覚をもち、児童・生徒が学ぶ教育現場にふさわしい態度や行動等を遵守できる学生。

(3) 事業目的

キャリア教育の一環として、中学校または高等学校でのボランティア実習（中学校は連続 5 日間、高校は連続 3 日間）を体験することで、教員に求められる自らの資質や能力を向上させ、教員としての実践的な指導力を身につける。

※センターでは、教育実習に行く前にこの科目の履修を推奨している。

(4) 実施日時・体験受入校・参加人数（小学校は筆者が訪問した一部の小学校のみを掲載）

前期		後期	
2016年9月7日（水）～13日（火）		2017年2月2日（木）～8日（水）	
堺市立上野芝中学校	2名	堺市立美木多中学校	2名
堺市立長尾中学校	1名	堺市立長尾中学校	1名
堺市立浜寺南中学校	1名	堺市立浜寺南中学校	1名
堺市立日置荘中学校	2名	堺市立日置荘中学校	1名
富田林市立第二中学校	3名	富田林市立第二中学校	1名
富田林市立明治池中学校	3名	富田林市立明治池中学校	4名
橋本市立隅田中学校	2名	橋本市立橋本中央中学校	3名
橋本市立高野口中学校	3名	大阪府立長野高等学校	3名
大阪府立大塚高等学校	1名	大阪府立松原高等学校	4名
大阪府立長野高等学校	2名	大阪府立金剛高等学校	2名
大阪府立松原高等学校	2名	堺市立御池台小学校	1名
堺市立御池台小学校	4名	堺市立登美丘東小学校	2名
堺市立登美丘東小学校	1名	堺市立新金岡小学校	2名
堺市立新金岡小学校	2名	堺市立鳳小学校	5名
堺市立鳳小学校	5名	堺市立中百舌鳥小学校	2名
計	34名	計	34名

(5) 学生が漠然とイメージする学校現場での活動例

校舎施設見学、登下校指導補助、授業見学、学習指導支援、生徒指導支援、生徒会指導補助、昼食指導補助、ホームルーム指導補助、清掃活動、教材資料印刷、放課後学習補助、各種会議見学、各種行事補助、各種研修会参加、現任教職員からの指導・助言、部活動指導補助など、あらゆる教育活動の見学・支援・補助。

インターンシップⅠの授業を履修希望する学生の多くは、上記のような活動を通して「教育実習前に学校現場を知りたい!」「自分の適性を見極めたい!」という思いを強く抱いている。教育実習を体験していない2回生の時点では、教師として一番の関心事である「子ども理解を深める」という視点にまで考えが及びにくいのは致し方ないだろう。この視点は、3、4回生対象事業の「インターンシップⅡ」や各自の「学校支援ボランティア」等で引き継がれていくことになる。

(6) 大学が期待する事業成果の例

項目	学生が獲得することが期待される成果
教師像	学生が、初めて「教師の立場と視点」で学校に入り込むことで、自身の「教師像」について鮮明にすることができる。
資質能力	学生が、「教師に求められる資質能力」について、肌で実感することができる。
適性	学生が、自身の「教職への適性」を探ることができる。
不安	学生が、「教育実習前に現場を体験」できることで、教育実習の不安を軽減できる。
キャリアデザイン	学生が、「キャリアデザイン」の形成を促進することができる。
社会貢献	学生が、大学生としてボランティアに参加することで、「社会貢献」することができる。
キャリアモデル	学生が、「キャリアモデル」となる人物に出会う可能性がある。

大学は、学生が上記のような成果を収めることをきっかけとして、自分の職業人生を主体的にかつ明確にデザインし始めることを期待している。もし、「教職」に志が定まったのであれば、「教採合格」を勝ち取るためにセンターを最大限に活用してもらいたい。

(7) インターンシップの活動を終えた学生の感想

①教師像を鮮明化できた学生

- 学校ってこんな仕事もあるのかということを知った。インターンシップ生として雑用や重労働といった授業と関係のないことをさせられたが、全てのことが生徒につながり、生徒が笑顔になってくれることが分かった。
- 授業の準備が本当に大切だと知った。教材研究をするときに、いろんな先生たちと話し合っていて、よく考えて作ることが大切だと学んだ。
- 先生方の放課後の会議に参加させていただき、生徒のことを話し合う姿にチームとしての学校の力を感じた。
- 生徒が帰った後で、自分のクラスの机・椅子をきれいに並べなおして明日への気持ちを引き締めることを見て教育環境を整えることの大切さを教わった。授業以外にも、休憩時間や給食時間、放課後など仕事が続くことが分かった。

②教師に求められる資質能力について学んだ学生

- 生徒とのコミュニケーションの取り方や発問の間やタイミング、展開の仕方、クラスに応じた対応力などの大切さが分かった。緊張もあり、生徒になかなか話しかけることができなかつたが、放課後学習での取り組みで「分かった！」と笑顔で言われてめっちゃ嬉しかった。

教育インターンシップ I の取り組み

- 部活動で初心者の子の担当になり、どう教えていいか悩みまくったが、一生懸命教えていくうちにみんなと一緒に練習できるようになってくれたので感動した。『教え続けることによっていつか変わることがある。中学生は特に、急にその日が来るから面白い。』と教わった。
- 授業がない時間に校内巡回をして、各教室の秩序維持に役立っていることを知った。生徒たちにどういう風になってほしいのかということ先生方がしっかり定めていることが大切と知った。
- 連携して自分の学年の子の情報を共有することの大切さを知った。教頭先生は全学年の課題を知っていた！

③教職への適性について学んだ学生

- 大学ではわからない先生方の仕事をしっかりと自分の目で確認できた重要な機会でありとても有意義だった。私が見たかったものをしっかりと見ることができたと思うが、気持ちあまり動かなかった。先生ってすごいな！と感じることがたくさんあったと同時に苦労や仕事量が見え少し気持ちが引いてしまった。教育実習で苦労を体験してそれでもやりがいを感じる如果能够したら先生になろうと思う。
- 中学校か高校でまよっていたので、校種を1つに絞ることを目的にインターンシップに参加した。最終日になって、高校の先生方の授業づくりや生徒たちの成長ぶりに喜びを感じている自分に気付いた。大変だけど、生徒の成長について語る先生方の充実した顔に私も頑張りたいと思った。
- 安全管理が欠かせないことを学んだ。そして、障害のある生徒への接し方も学んだ。先生の仕事はいいものだと感じたが、自分にはあまり向いていないように感じた。
- 先生の仕事は一言で言うとサービス業のようであった。いつも走っていた。生徒のために尽しているモードだった。教職の厳しさに、自分のような人間が教師になっていいのか不安になった。
- 教師という職業を改めて考え直す機会となった。TTの授業やデジタル教材の使用、ALTとの授業や発問の仕方、注意の仕方など、大学で作った自分の授業案にはまだまだ改善点がたくさんあることに気付いた。授業以外の指導がたくさんあることも学んだ。子どもが好き、学校が好きということは改めて感じたが、教師になると決めていいのかまだ迷っている。他の職業も体験したい。

④不安、キャリアデザインにつながる感想

- 教育実習は4回生になってからなので、授業やホームルーム、行事などを教師目線で2回

生のうちに見られたことがとてもよかった。

- 大変さを知ると同時に充実感が伝わってきて、合格するためには、大学でもっとたくさん学んでいろんなことを身につけないといけないと感じることができた。

3. 学生が体験したユニークな活動例

インターンシップ期間中には学校訪問をさせていただく。学生が必死に頑張っている様子を聞かせていただくと担当者としてホッとする。学生を単に受け入れるだけでなく、「受け入れるからには鍛えてやろう！」と、学生にユニークな教育活動を体験させていただいた学校があるので紹介する。

① 【窓ふきは2回！徹底的に！授業には簡単に入れない！】

校長先生自ら体操服に着替え、校舎廊下の窓ふき2回掛けの陣頭指揮をされていた。「徹底的にきれいにする」ために同じ窓を2度拭かせる方針とのこと。徹底的にきれいにして、やっと授業を見学できる！という仕掛けで授業見学の有難さを認識させていた。

② 【1日のスケジュールは自分で交渉してくれ！】

教職員全体に紹介された後は、自分の教科にかかわらず、入りたい授業に個人交渉をしてその教科担当者のOKを取れ。たくさんの現職教員と触れ合い、指導助言を仰げることになる。待っている1時間たりとも教室には入れない。

受け身では伸びない。大切にしてほしいのは、失敗してもいいからチャレンジしていくこと。校長先生に「大学生が失敗したら、現職がカバーし切る自信と部下への信頼」があるからこそ計らいだ。もちろん学校事情による。

③ 【自分のできることを学内探検して見つけておいで！】

主体的・対話的で深い学び（AL）のために、まずは、学生に校内自由探検をさせる。そして学校内で自分ができることを探してくる。自主性、積極性、主体性の育成のためのアイデアとのこと。

④ 【校長レクチャー2時間！】

学生の事前訪問時、校長先生自ら学生に2時間もかけて学校案内をしていただいた。教職員と同じ温度感覚になってもらおうという配慮であった。学生は不安がほとんどなくなって安心して実習に参加できたという。学生は、インターンシップ終了後も引き続きボランティアとして学校に出入りできるようになった。

⑤ 【全国大会の運営スタッフをしてみないか？】

インターンシップの配置予定校から、「実習前に図画工作の全国大会を開催するので参加し

てみないか」というオファーを受けた。学生はオファーに応じ、大会 2 日目の朝から晩まで運営補助に加わり、分科会、全体会にも無料で参加させていただいた。文部科学省担当官の指導助言・見解も伺えたという。教師を志す学生に可能な限りのチャンスを与えて、教育の今と未来を考えさせていただいた。

⑥ 【一緒にうどんを作ろう！】

耐寒登山の引率をして戻ってきた教員たちのために、PTA 役員と残留教職員とが協力して温かいうどんを作る作業に動員された。学生は雑用をさせられたと初めは思ったらしいが、先生方のうどんをすすむ姿に、「同僚を思いやる愛情」と、「PTA などとの連携があってこそその子どもの教育なんだ！」と実感したという。授業以外の教師の仕事も含めて学校が成り立っていることを学ばせていただいたという。

ある実習校では、大阪大谷大学出身の教員が複数在籍しており活躍されていることを校長先生から伺った。そして、普段から理科教育や特別支援教育関係で中大連携をしている実績があるので、大阪大谷大学に対する信頼感が厚いとおっしゃっていた。先人の普段の取り組みの積み重ねのお陰で、次の世代の取り組みがスムーズに実施できていると感じた。

4. 課題と対策

教育実習実施学年よりも若い学年で現場の厳しい場面に直面することで、負の成果となることもある。

もともと教職志向の比較的高い学生が参加しているとは言うものの、やはり厳しい教育現場に直面すると戸惑いや失敗は尽きない。学生の感想にもあったように、『教職の厳しさに、自分のような人間が教師になっていいのか不安になった。』ということになる。

また、『先生ってすごいな！と感じることがたくさんあったと同時に、苦労や仕事量が見え、少し気持ちが引いてしまった。教育実習で苦労を体験してそれでもやりがいを感じることできたら先生になろうと思う。』と自分で解決策まで考えることのできる学生もいる。

いずれも事前の指導を教育実習時同様、念入りにする必要がある。事後指導においても、自信喪失状態に対する振り返りの時間を十分に設定し、学生の体験した学びを共有化して深化する時間を丁寧にもつ必要がある。

一方、学校現場側で発生していた課題は、学生の活動日誌に押印する負担であった。法的根拠に基づいた教育実習時には発生しない教員の悩みである。受け持つ 2 回生レベルの学生に、指導教官として教育的愛情をかければかけるほど担当教員の仕事量は増大する。

学生が記入してきた活動日誌の点検をすれば、誤字脱字のレベルからの指導が必要となる。内容にまで指導を踏み込めばそのエネルギー量は教育実習と何ら変わらなくなる。3～5日間の飛び込みである学生にたっぷり指導を授ける余裕はあるはずがない。

結果として、活動日誌の点検については学校裁量にお任せすることになった。ボランティアの配置が当たり前のこの時代、本来業務でない指導教官の事務負担を極力少なくすることが必要なので、大学としてのスタンスを見直す時期が来ているのかも知れない。

5. 終わりに

昨年度もまた、大学のセンター事業を有意義に活用して巣立っていった OB からの便りがセンターに届いた。

学生時代には面接指導やエントリーシート添削、教師としての心構えを教えていただくなど、多岐にわたりお世話になりました。卒業から9か月が経ち、時の流れの早さを実感します。現在は1年生担任として、また部活動（バレー、陸上）指導など充実した日々を過ごしています。悩むことも多いですが周囲の先生方に支えられ、子どもたちからは元気をもらう勉強の毎日で、学ぶ楽しさを感じています。

教師として成長していくために、自分自身と、そして子どもたちと向き合い精進していきます。大阪大谷大学卒業の名に恥じぬよう努めていきますので今後ともよろしく願いいたします。

また、講師2年目の OB からもお手紙をいただいた。教採の現役学生合格率は3～4割程度。学生にとって教職への道は厳しく、卒業後の継続的な学びが肝心となる。講師としての経験を積みながら教採にチャレンジしていた卒業生の揺れる気持ちが伝わってくる。

先生には卒業してからもたくさんお世話になりました。面接練習にも遅くまでお付き合いいただきありがとうございました。今年も先生の手助けと支えがないと合格まで辿り着くことができなかったと思います。

心が折れてどうしようもない時、優しく声をかけてくれたことは忘れません。「先生」という道をあきらめかけたこともありましたが、今はあきらめなくて本当に良かったと思っています。「先生」という仕事を私は心から誇りに思っています。人を育てることの難しさについていつも考えさせられていますがそれをやめようと思ったことは一度もありません。

これから私自身もっと勉強していき、子どもたちに返していけるようにしたいです。先生には感謝してもしきれませんが、それを私はこれから先生として頑張っていく姿で少しでも

返していけたらと思います。先生のように心優しく、真剣に向き合っていけるような先生を目指していきます。本当にありがとうございました。

このOBたちは、「教採合格はゴールではない。」ということに気付いている。

センターは、学生に教採の実態を伝え、合格を勝ち取るための「里程標」を示していく。その情報が示す道程は学生にとって決してバラ色ではない。しかし、インターンシップのような事業を通して「やる気スイッチが入った」学生のころはぶれにくい。

このOBたちのように、「心に火が付き」、教職への憧れを確固たる信念と化すことができれば、その後の学生生活や卒業後の生活を自律し自制できるようになる。

平成29年度も昨年度とほぼ同数の学生たちがインターンシップIにエントリーしている。インターンシップIは、「今の自分の力では教採合格には到底及ばない。」ことを非情に知らせるとともに、「でも、やはり、教師になりたい！」という思いを「初心」として心に刻める最も効果的なセンター事業のひとつである。

教師になるために何が必要なのかを自らが気づき資質向上に取り組むことができれば、教採合格後のいばらの道にも対応できるだろう。課題山積の教育現場でしっかり対応できる「初心」を学生時代に少しでも早く身につけてほしいものである。

『志定まれば、気盛んなり』なのである。

【活動報告】

平成 29 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職教育センター

I. 平成 29 年度

1. 組織および配置

平成 29 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務） 1 名

センター教員（兼務） 3 名

教職教育担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長 1 名、係長 1 名、課員 2 名

派遣職員 3 名（合計：専任 4 名、派遣 3 名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく運営に携わっていただいた。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度 平日 9:00～17:30

土曜 9:00～12:30

平成 22～29 年度 平日 9:00～11:20 12:20～17:30

土曜 9:00～12:30

II. 業務内容

1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続きや、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。

教職に就くためには、学力だけでなく学校現場で必要な実践力が不可欠である。教職支援課では、教職を目指す学生に対して、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うため

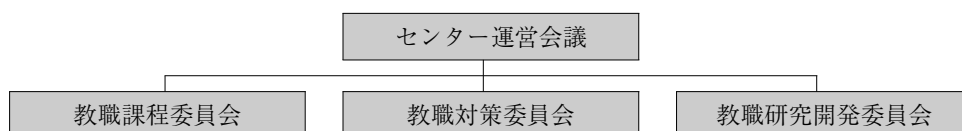
の取組みを入学後の早い段階より実施している。具体的には学校現場を訪問する「教師のお仕事入門」、「学校支援学生ボランティア」や授業である「インターンシップ」等への参加を推奨している。数多くの学校現場体験が、教師として必要な資質能力の涵養へとつながり、教師になる夢への継続支援の一端を担っている。

その他、年間を通して各種行事を計画し、タイムリーな情報提供や各種対策講座を行い学生の知識と実践力の向上及びモチベーション維持を図っている。

平成 29 年度の免許法及び施行規則の改正に伴い平成 31 年 4 月 1 日より新教職課程が開始することとなり、これまで本学が認定を受けている教職課程について平成 30 年度に再課程認定を受ける必要が生じた。近隣の教育委員会及び協力校に教育実習の承諾依頼や、教職に携わる専任教員及び非常勤教員へのシラバス等必要書類の作成依頼など、従来業務に加え再課程認定申請業務に尽力し平成 30 年 3 月中に申請する準備を進めている。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教育職員養成課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。



教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 29 年 4 月 5 日（水）15 時 30 分から（教職対策委員会との合同会議）

場所：第 1 会議室

議題：・教職課程委員長選出について

- ・文部科学省「教職課程認定大学等実地視察」における指摘事項への対応報告について
- ・平成 29 年度教職課程予算について（別紙参照）

第 2 回

日時：平成 29 年 5 月 31 日（水）18 時 15 分から

場所：第 1 会議室

議題：・再課程認定について

第 3 回

日時：平成 29 年 10 月 4 日（水）12 時 20 分から（教職対策委員会との合同会議）

場所：第 1 会議室

- 議題：・平成 30 年度以降入学生の「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」の一部名称変更について
- ・再課程認定にかかるコアカリキュラムのシラバス依頼について
 - ・再課程認定 今後のスケジュール等について

以降 数回開催予定

教職対策委員会

第 1 回

日時：平成 29 年 4 月 5 日（水）15 時 30 分から（教職課程委員会との合同会議）

場所：第一会議室

- 議題：・教職対策委員長選出について
- ・教員採用試験「大学推薦」について確認事項

第 2 回

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）18 時 30 分から

場所：教職教育センター会議室

- 議題：・大学推薦の結果報告
- ・教員採用試験二次面接対策について
 - ・教員採用試験の受験状況調査について
 - ・平成 28 年度卒業生教職就業状況報告
 - ・夏季一斉休暇中の教職教育センター開放について
 - ・平成 29 年度 大阪大谷大学 VISON 2025 取り組み計画について
 - ・その他

第 3 回

日時：平成 29 年 10 月 4 日（水）18 時 30 分から（教職課程委員会との合同会議）

場所：第一会議室

- 議題：・教職基礎演習の内容等の見直しについて
- ・その他

第 4 回

日時：平成 29 年 11 月 1 日（水）18 時 30 分から

場所：本館 第 1 会議室

- 議題：・教職基礎演習の見直し（継続審議）

- ・教員採用試験の合格者について
- ・その他

以降 数回開催予定

教職研究開発委員会

第 1 回

日時：平成 29 年 4 月 13 日（木）18 時 20 分～18 時 40 分

場所：センター会議室

議題：・委員長・副委員長の選出

第 2 回

日時：平成 29 年 9 月 13 日（水）10 時 30 分～11 時 00 分

場所：センター会議室

議題：・教職教育センター紀要に関する投稿について

以降 適宜開催予定

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

平成 29 年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の 3 学部 5 学科および教育専攻科、大学院文学研究科国語学国文学専攻、文化財学専攻の 2 専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・社会・保健体育・外国語（英語））、高等学校教諭一種免許状（国語・地理歴史・公民・保健体育・福祉・外国語（英語））、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）、

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語・外国語（英語））

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に「教育実習内諾オリエンテーション」を実施し、出席する人数等で

教育実習を希望する学生数を把握している。平成 25 年度から平成 29 年度の人数は表 1 のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表 1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション※出席者数	教育実習生数
25 年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458
26 年度 実習	幼稚園	119	111
	小学校	104	94
	中・高等学校	172	149
	特別支援学校	97	94
	計	492	448
27 年度 実習	幼稚園	115	107
	小学校	118	114
	中・高等学校	165	126
	特別支援学校	58	54
	計	456	401
28 年度 実習	幼稚園	113	106
	小学校	108	106
	中・高等学校	165	123
	特別支援学校	50	45
	計	436	380
29 年度 実習	幼稚園	116	102
	小学校	118	111
	中・高等学校	171	127
	特別支援学校	46	46
		451	386

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

介護等の体験では、毎年問題点が浮上しており、それらの問題点を考慮し、オリエンテーションでの事前指導方法等は改善を重ねてきた。平成 29 年度は、前年同様に施設での体験 1 ヶ月前「直前オリエンテーション」に加え、支援学校の「直前オリエンテーション」を実施し、支援学校での心構えや子どもと関わる際の注意点を再度確認した。

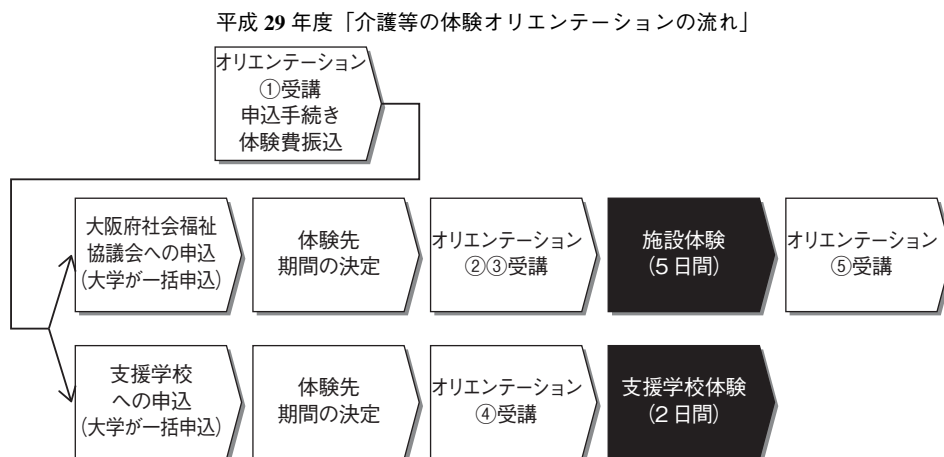
しかし、依然としてオリエンテーションの内容を理解しないまま体験に行き、施設や支援学

表 2 介護等の体験参加者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 25 年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英米語学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199
平成 26 年度	日本語日本文学科	10	11	10	10
	英米語学科	1	0	1	0
	文化財学科	1	2	1	2
	教育福祉・教育学科	3	96	3	94
	人間社会学科	2	2	1	2
	スポーツ健康学科	0	64	0	57
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	17	177	16	167
平成 27 年度	日本語日本文学科	3	13	2	7
	文化財学科	1	5	1	4
	教育福祉・教育学科	8	73	8	65
	人間社会学科	14	2	9	1
	スポーツ健康学科	14	50	7	44
	科目等履修生	0	0	0	2
	計	40	143	27	123
平成 28 年度	日本語日本文学科	2	19	2	16
	文化財・歴史文化学科	3	15	3	14
	教育学科	5	105	4	100
	人間社会学科	0	10	0	6
	スポーツ健康学科	2	49	2	45
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	12	199	11	182
平成 29 年度	日本語日本文学科	1	10	1	10
	文化財・歴史文化学科	12	6	10	4
	教育学科	13	103	13	102
	人間社会学科	0	6	0	6
	スポーツ健康学科	12	29	12	27
	科目等履修生	1	0	1	0
	計	39	154	37	149

※…施設 5 日間、支援学校 2 日間両方の体験終了者数

校へご迷惑をかける場合があるため、引き続き「介護等の体験」の意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。



4. 免許状更新講習

平成 29 年度は選択領域のみ 4 講習、実施は各 1 日となった。

表 3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間	定員	受講者数
平成 24 年度	特別支援教育講座	選択	8月3日(金)～7日(火)	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8月6日(月)	6	60	17
	学校教育講習	選択	8月7日(火)	6	60	21
		選択	8月8日(水)	6	60	8
	計					103
平成 25 年度	特別支援教育講	選択	8月2日(金)～6日(火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8月5日(月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8月6日(火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8月7日(水)	6	60	4
	計					65
平成 26 年度	特別支援教育講座	選択	8月1日(金)～5日(火)	18	50	50
	幼児教育講習	選択	8月4日(月)	6	60	33
	学校教育講習	選択	8月5日(火)	6	60	12
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(水)	6	60	7
	計					102

平成 29 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成 27 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(金)、8月1日(土) 8月3日(月)	18	50	53
	幼児教育講習	選択	8月4日(火)	6	60	20
	学校教育講習	選択	8月5日(水)	6	60	7
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(木)	6	60	10
	計					90
平成 28 年度	特別支援教育講座	選択	7月30日(土)、8月1日(月)、8月2日(火)	18	50	52
	幼児教育講習	選択	8月3日(水)	6	60	25
	学校教育講習	選択	8月4日(木)	6	60	6
	中学・高等学校教育講習	選択	8月5日(金)	6	60	10
	計					93
平成 29 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(月)	6	50	37
	幼児教育講習	選択	8月2日(水)	6	60	37
	学校教育講習	選択	8月3日(木)	6	60	14
	中学・高等学校教育講習	選択	8月4日(金)	6	60	7
	計					95

5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第9号を発行することとなる。

Ⅲ. センター独自のプログラム

センターでは、教員免許を取得するだけにとどまらず、教員に求められる資質を身につけ、学校現場へ送り出すために一貫した学生就職支援を実施している。

具体的には、「実践力向上プログラム」として、1. 教師のお仕事入門 2. 学校支援学生ボランティア 3. 教育インターンシップ 4. 現場実践経験基礎講座があり、人間力を磨く機会となっている。また、「筆答対策プログラム」として、5. 教職基礎演習（キャリア教育科目） 6. 基礎学力向上講座（通称：タニ☆スタ 6） 7. 教員採用試験対策講座（長期休業期間中実施） 8. タニスパ・タニスポ 9. DVD 講座があり、教員に必要な知識と専門性を高めるための支援を行っている。

その他、各種行事や実技対策講座等を通じ、最新の教育情報を提供している。

1. 教師のお仕事入門

「教師のお仕事入門」では、近隣の小学校、中学校、高等学校にご協力いただき主に1回生が学校現場を訪問し、児童・生徒との交流をはかっている。

——訪問学校——

- H 29. 6. 7 (水) 彼方小学校
- H 29. 9. 12 (火) 錦織小学校
- H 28. 9. 12 (水) さつき野小学校、さつき野中学校
- H 29. 9. 13 (水) 富田林中学校、富田林高等学校
- H 29. 9. 19 (火) 河南高等学校

2. 学校支援学生ボランティア

学校現場で先生の補助や児童・生徒の授業支援を行うもので、1 回生から参加することが可能である。ボランティア活動に際しては、事前・事後の研修を課し、学生たちへ先生としての心構えや注意点を指導するとともに教職へのモチベーション維持を図っている。

平成 29 年度は既に 123 名のボランティア登録があり、例年以上に学校現場や子供たちの状況に対する関心が高まったと捉えたい。

3. 教育インターンシップ

教育実習に行く前に学校現場を体感することで、スムーズに教育実習へと臨むことが出来るように設定された正科目で、2 回生以上の学生が履修できる。教育現場を知ることで、自分の課題を見つけ、課題を克服し、実践力向上へとつなげている。

平成 29 年度 教育インターンシップⅠ 修了者 123 名

教育インターンシップⅡ 履修者 40 名 (2 月実施予定)

(事業報告(浦部孝英特任教授)で「教育インターンシップⅠの取り組み」を掲載)

4. 現場実践経験基礎講座(公開講座)

この講座では、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただいている。授業は公開とし、現場経験の少ない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重な機会と考えている。今年度の「現場実践経験基礎講座」は、表 4 のとおり実施した。

表 4 平成 29 年度「現場実践経験基礎講座」一覧

	月日	テーマ	講師	科目
1	4 月 28 日 (金)	大阪の子どもたちの生徒指導上の課題と取り組み	山田 智一	学校教育演習Ⅱ
2	5 月 26 日 (金)	大阪の子どもたちの学力の現状と課題及び学力向上の取り組み等	加納 啓司	学校教育演習Ⅱ

5. 教職基礎演習（キャリア教育科目）

教員として必要とされる教養や実践力を身につけるための正課授業として、平成 29 年度は表 5 の科目を設置した。

表 5 教職基礎演習開講科目詳細

開講科目名	詳細名	期	対象学年
※教職基礎演習ⅠB	ⅠB（教職教養・他自治体メイン）	前	3年
	ⅠB（教職教養・大阪メイン）	前	3年
※教職基礎演習ⅠB	ⅠB（ICT）	前	3年
	ⅠB（数的処理等）	前	3年
	ⅠB（一般教養）	前	3年
	ⅠB（面接）	前	3年
	ⅠB（理科）	前	3年
☆教職基礎演習ⅡB	ⅡB（ICT）	前	4年
	ⅡB（一般教養）	前	4年
	ⅡB（面接・英語実技）	前	4年
	ⅡB（数学）	前	4年
	ⅡB（面接）	前	4年
☆教職基礎演習ⅢB	ⅢB（法規・時事）	前	4年
	ⅢB（原理・心理）	前	4年
☆教職基礎演習ⅠA	ⅠA（教職教養・大阪メイン）	後	3年 2年
	ⅠA（教職教養・他自治体メイン）	後	3年 2年
☆教職基礎演習ⅠA ☆教職基礎演習ⅡA	ⅠA（ICT）	後	3年 2年
☆教職基礎演習ⅠA ☆教職基礎演習ⅡA	ⅠA（数的処理等）	後	3年 2年
☆教職基礎演習ⅠA ☆教職基礎演習ⅡA	ⅠA（一般教養）	後	3年 2年
☆教職基礎演習ⅠA ☆教職基礎演習ⅡA	ⅠA（面接）	後	3年 2年
☆教職基礎演習ⅠA ☆教職基礎演習ⅡA	ⅠA（理科）	後	3年 2年
※教職基礎演習ⅡA	ⅡA（ICT）	後	3年
※教職基礎演習ⅡA	ⅡA（面接・英語実技）	後	3年
※教職基礎演習ⅡA	ⅡA（数学）	後	3年
※教職基礎演習ⅡA	ⅡA（面接）	後	3年
※教職基礎演習ⅡA	ⅡA（一般教養）	後	3年
※教職基礎演習ⅢA	ⅢA（法規・時事）	後	3年
※教職基礎演習ⅢA	ⅢA（原理・心理）	後	3年

学習指導要領の改訂により、教員の能力として ICT の活用力や英語力が求められることとなり、現場で即戦力となり得るための講義や、一般教養や教職教養の領域ごとの実践的な演習講義を設けて、小グループによる継続的な学習を行った。

6. 『基礎学力向上講座』

教員に求められる知識の育成と向上を目指し、平成 25 年度より行っている「基礎学力向上講座」（学内通称名「タニ☆スタ 6」）を引き続き平成 29 年度も実施した。

今年度は「大阪府、大阪市、堺市、豊能地区」の試験に出題されている「判断力・思考力を問う問題」の問題数が増加したことや高配点となっていることを考慮し、特化したクラス編成を講じた。

なお、6 限目に補講が設定されることが増えたため、補講出席による講座欠席者対応として、昨年度より該当する講座を録画して希望者には空き時間に学習可能となるよう措置を講じたところ利用学生も増えてきている。

表 6 平成 29 年度タニ☆スタ 6 受講者数

学科名	クラス	A	B	C	D	E	F	G	計
	学年								
日本語 日本文学科	4		1					1	2
	3								0
	2				1	3	2		6
	1					5			5
文化財学科 歴史文化学科	4	1	1						2
	3								0
	2			2	2	2			6
	1					2	5		7
教育学科	4	40	22					19	81
	3		1	10	4	1	1	3	20
	2		1	8	16	16	18	5	64
	1				2	13	17	1	33
人間社会学科	4							1	1
	3			1					1
	2				1	1	1		3
	1					1	3		4
スポーツ 健康学科	4	1	5					2	8
	3						1		1
	2		0	3	3		3		9
	1					5			5
合計		42	31	24	29	49	51	32	258

7. 教員採用試験対策講座（長期休業期間中実施）

夏期及び春期休業期間を利用して実施する短期（7～8 日間）集中の講座。

（Ⅳ 行事報告 1、2 に詳細を掲載）

8. タニスパ・タニスポ

i-pad を利用し、教員採用試験の過去問題を解説したビデオを視聴学習できるシステム。空き時間を利用しての学習が可能であるため、クラブ活動やボランティア活動との両立をする人にとって、有効な学習方法の一つとなっている。

9. DVD 講座

教員採用試験の頻出領域の解説が収録された DVD を視聴し、学習する方法。タニスパ・タニスポと同様、時間を有効活用できる学習方法の一つである。

Ⅳ. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度 1 年間分の行事を計画している。

今年度は実習直前オリエンテーションを前倒しにして、年度初めのオリエンテーション期間に全校種実施した。例年行っている一斉休業期間中の教職教育センターの開室も引き続き実施した。

今年度の行事で、特記する行事を以下のとおりまとめた。

1. 一般教養対策講座（夏期及び春期休業期間に実施）

教員採用試験で頻出の問題を中心に押さえるべきポイント等を学ぶ講座。一般教養を学び直すことで自分の弱点を見つけ、早い時期からの学習習慣が身につくよう実施している。今年度からは科目に数的理解を加えて、本学学生の苦手領域をより学べるように考慮した。

8 月 21 日から 31 日までの期間で 67 名の申込があった。

2. チャレンジテスト対策講座（夏期休業期間に実施）

平成 26 年から始まった「大阪府教員チャレンジテスト」について、1、2 回生の学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるために、教員を目指す学生への受験を促している。

教職教養の初歩的な内容を押さえ、基礎的な問題に対応できる力を身につけることを目標に 9 月初旬から中旬の授業開始直前 5 日間の日程で対策講座を実施し、51 名の申込があった。

表 7 チャレンジテスト対策講座 参加者人数

学年	平成 26 年度					平成 27 年度					平成 28 年度					平成 29 年度				
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
参加者数	7	40	41	1	89	8	32	35	1	76	3	35	16	0	54	0	10	32	1	43

また、試験直前に教職教育センター長が学習のポイントと学習方法を中心とした講座を実施。受講申込者数は 42 名であった。日程と内容は表 8 のとおり。

表 8 大阪府教員チャレンジテスト直前対策講座

	日程	時限	内容
1	11 月 3 日（金）、8 日（水）どちらか 1 日	6 限	ガイダンス、資料配布
2	12 月 6 日（水）	6 限	思考力・判断力対策
3	12 月 13 日（水）	6 限	思考力・判断力対策

※教職教養対策講座については、春期休業中に 7 日間の日程で講座を実施予定。

次年度以降も学生への呼びかけを怠らず、充実した内容で講座を実施したいと考えている。

3. 実技対策講座

平成 29 年度は 6 月中旬から水泳練習を開始し、8 月は例年通り器械体操やボール運動の対策も合わせて行った。日程と参加者数は以下の通りである。

表 9 体育実技対策講座 参加者

	日程	時限	参加者数
1	6 月 17 日（土）	2 限目	9
2	6 月 24 日（土）	2 限	18
3	8 月 7 日（月）	台風の為中止	—
3	8 月 8 日（火）	2・3 限	17
4	8 月 9 日（水）	1・2・3・4 限	29

4. 教師塾（教員採用試験）面接・エントリーシート対策講座

教師塾入塾選考対策については年度末の春期休業中に「教採・教師塾対策講座」を 2 回実施予定。

今年度はこれまでの反省と教員採用試験の動向を加味し、より充実を図った講座内容とした。ここに挙げた以外の行事実施状況は、次頁表 10 のとおりである。

以上、平成 29 年度教職教育センター事業活動はまだ継続中であるが残りの計画においてもセンター教職員一同、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたい。

平成 29 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

表 10 平成 29 年度 教職教育センター 年間行事一覧

	月	日(曜)	時間	行事名	内容			
新年度 オリ	3末 ～ 4初	オリ 期間中		新入生対象オリエンテーション	教職教育センターの利用案内&行事について			
				2～4回生教職課程履修者・履修予定者対象 オリエンテーション	教職教育センターの利用案内・行事・教職課程履修上の注意			
教育実習	H29 年度実習	4	4日(火)	2限 10:45-12:15	直前オリエンテーション(小)	実習の必要書類配付と説明		
			4日(火)	3限 13:05-14:35	直前オリエンテーション(幼)	実習の必要書類配付と説明		
			5日(水)	3限 13:05-14:35	直前オリエンテーション(特支)	実習の必要書類配付と説明 直前の注意		
			19日(水)	5限 16:35-18:05	直前オリエンテーション(中・高)	実習の必要書類配付と説明		
	H30 年度実習(予定者)	3	31日(金)	13:00-14:30	内諾オリエンテーション(特支)①	次年度実習のための希望調査		
		4	12日(水)	4限 14:50-16:20	内諾オリエンテーション(中・高)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)		
		6	14日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(小)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)		
		7	12日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(幼)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)		
			19日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(特支)②	実習校の発表とリーダーの選出		
		9	27日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(特支)③	「教育実習依頼書」についての説明		
		介護等 の体験	H29 前期	4	15日(土)	1・2限 9:00-12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について 実習上の注意事項
				6	7日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション④	特別支援教育について
	17日(土)			1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション④ <予備日>			
H29 後期	4		7日(金)	15:30-17:00	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」実習 申し込み手続きについて		
			15日(土)	3限 13:05-14:35	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>			
	9		13日(水)	1・2限 9:00-12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について 実習上の注意事項		
	H30 前期		9	13日(水)	3限 13:05-14:35	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」実習 申し込み手続きについて	
			30日(土)	1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>			
免許状 申請	11		8日(水)	5限 16:35-18:05	教員免許状一括申請説明会	平成30年3月免許状取得見込み予定の4回生・専攻科生・大学院生対象 教員職員免許状授与申請書の配付と説明		
教職オリ エンテー ション	1 回生		6	6日(火)	昼休 12:20-13:00	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには？	
		12	5日(火)	昼休 12:20-13:00	1回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	先生になるためには、どんな勉強をするの？		
		5	30日(火)	昼休 12:20-13:00	2回生 教職オリエンテーション 教員に求められるもの	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 勉強の進め方、資質の向上について講義		
	2 回生	10	11日(水)	5限 16:35-18:05	2回生 教職オリエンテーション 3回生までに知っておいてほしいこと	小・中・高・特支・政令指定都市の幼 勉強の進め方、資質の向上について講義		
		5	17日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験に向けて	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演		
		10	4日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 筆記試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演		
	3 回生	11	29日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)		
		1	10日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)		
			未定	未定	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施		
	幼稚園オリ エンテー ション	1・2 回生	6	27日(火)	昼休 12:20-13:00	1・2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	幼稚園・保育所の先生になるには？	
			11	15日(水)	5限 16:35-18:05	2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	幼稚園教員・保育士希望者対象 情報の集め方・学習の進め方について講義	
			12	15日(金)	昼休 12:20-13:00	1回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士に求められるもの	幼稚園教員・保育士希望者対象 学習の進め方・資質の向上について講義	
		3 回生	5	16日(火)	昼休 12:20-13:00	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 実習と連動して学んでほしいこと	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないこともあります。	
			26	26日(金)	昼休 12:20-13:00	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション <予備日>		
			11	1日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士採用試験に向けて	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	
			全	10	25日(水)	5限 16:35-18:05	幼稚園・保育所・福祉施設ガイダンス	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施)
お仕事 入門	6	未定	未定					
	9	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童との交流 グループに分かれて、教室を訪問			
	9	未定	未定					
	2	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校・中学校・高等学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問			

平成 29 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

	月	日(曜)	時間	行事名	内容	
4 回生 対象 教員 採用 試験 対策 講座	実 技	6-	随時	随時	4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 図画工作・音楽美術・小論文・体育美術・他	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくはHPにてお知らせ
		筆 記	4	22日(土)	3限 13:05-14:35	4回生 教員採用試験 筆記対策講座
	5		31日(水)	5限 16:35-18:05	4回生 幼稚園教員採用試験 筆記対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演
	6		21日(水)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座	採用試験で押さえておくポイントについての講義
	5		19日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座	面接・エントリーシート対策 志望動機・自己PRのつくりかた
			23日(火)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>	
	6		28日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座	エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR
	7		26日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>	
	未定		未定	未定	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実践
	未定	未定	未定	4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次試験対策編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実践	
6~8月 月・火・木・金		随時	4回生 面接・グループワーク練習 (集団・個人・討論・場面指導・模擬授業等)	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくは、HPにてお知らせ		
教 師 塾 対 策 講 座	説 明 会	4	21日(金)	昼休 12:20-13:00	3・4回生 大阪市教師養成講座説明会	大阪市教育委員会担当講師による説明
		4	25日(火)	昼休 12:20-13:00	3回生 大阪教士セミナー説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明
		4	27日(木)	昼休 12:20-13:00	3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明
	対 策 講 座	4	26日(水)	4・5限 14:50-18:05	3・4回生 教探・教師塾対策講座	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策 申込書作成についての説明
		5	6日(土)	午前	3・4回生 教探・教師塾対策講座	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策 先輩のお話を聞き面接やエントリーシート作成の説明及び模擬授業
		2	21日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教探・教師塾対策講座①	各教育委員会が主催する教師塾に入塾するための対策 志望動機、自己PRのつくりかた、面接の心得について講義
		2	28日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教探・教師塾対策講座②	
	講 師 登 録 説 明 会	9	26日(火)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明
		10	27日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会 <予備日>	
	教 探 学 内 セ ミ ナ ー	4	10日(月)	午後	4回生 教探学内セミナー <大阪府・大阪市・豊能地区>	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます
4		13日(木)	昼休 12:20-13:00	4回生 教探学内セミナー <神戸市>	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	
5		10日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教探学内セミナー <和歌山県・京都府・関東地区 他>	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	
12		6日(水)	4・5限 14:50-18:05	3回生 教探学内セミナー (近隣教育委員会)	(事前申し込み制) 教育委員会講師による説明会 各自自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	
ボ ラ ン ティア	H29 4	26日(水)	5限 16:35-18:05	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	平成28年度にボランティア活動を行う予定の学生対象 ボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方など	
	H30 2	28日(水)	3限 13:05-14:35	学校支援学生ボランティア修了式	平成28年度にボランティア登録をし、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表	
教 職 模 試	4	8日(土)	午前	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
		15日(土)	午前	教職模試②(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
		6日(土)	午前	教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
		13日(土)	午前	教職模試④(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
		6	3日(土)	午前	教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
		12	16日(土)	午前	教職模試⑥(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文
		1	20日(土)	午前	教職模試⑦(出題:東京アカデミー) 無料	(小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養
		2	3日(土)	午前	教職模試⑧(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養・専門教養
有 料 講 座	長 期	4-1	クラスごとに 設定 8限 18:15-19:45	タニタスタ6 基礎学力向上講座	東京アカデミー・時事通信出版局 担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策	
		7	7日(金)	昼休 12:20-13:00	教員採用試験対策講座案内 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法など
	短 期 集 中	8-3	未定	未定	一般教養対策講座	時事通信社担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策
		9	未定	未定	チャレンジテスト対策講座	
		2	未定	未定	教職教養対策講座	
保 護 者 対 象 説 明 会	6	10日(土)	10:00-13:00	保護者対象 就職説明会	保護者のみ	